

主題：キリストのからだの実際

メッセージ 3

キリストのからだの実際のために、キリストを生きる

聖書：ピリピ1:19-21前半、3:3、8-14。エペソ3:1、

4:1、11-12、16。6:18、20。ローマ8:2、29

- I. キリストのからだとしての召会は、キリストから出た純粋な産物です。キリストから出てきて、彼の復活の命を持っているものだけが、彼の補完と配偶、すなわちキリストのからだになることができます——創2:22-23。エペソ5:28-30：
 - A. からだのかしらはキリストであり、かしらのからだもキリストです。ですから、かしらとしてのキリストと共にあるキリストのからだは、「そのキリスト」、団体のキリストです——コロサイ1:18。Iコリント12:12。コロサイ3:10-11。
 - B. キリスト以外のものはすべて、キリストのからだではありません。キリスト以外のものはすべて、キリストのからだの中で異質の要素です。このビジョンはわたしたちを「無力」にし、わたしたちの天然の人を活用させなくします——ピリピ1:19-21前半、3:3、8-14。
- II. キリストのからだの実際のためにキリストを生きることは、わたしたちの霊の中に監禁されて、「キリスト・イエスの囚人」、「主の中の囚人」、「鎖につながれている大使」になることです——エペソ3:1、4:1、6:20。IIコリント5:20：
 - A. わたしたちはキリストの中に監禁される時、彼の啓示を受けて、彼の無限の度量の中で、彼を経験します。すなわち、彼が召会を愛するキリストであること、新しい人を創造するキリストであること、すべてのものをかしらにつり上げるキリストであること、賜物を造り賜物を与えるキリストであること、ホームを造るキリストであることを経験します。それはキリストのからだを建造するためです——エペソ3:18、5:25-27、2:15-16、1:20-23、4:7-8、11-12、3:17前半。
 - B. キリストの大使としてキリストを生きる人は、もはや自分自身の自由を持っておらず、もはや自分自身の便宜にしたがって事を行なうこともできません。彼がどこへ行くか、彼が何を行なうかは、彼の選択によるのではなく、神の導き管理する御手の下にあり、神の導き管理する御手によります——エゼキエル3:1-3。ヨハネ7:6、8。
- III. キリストのからだは、キリストを経験した結果です。ですから、わたしたちは死にも狂いになって祈る必要があります。それはわたしたちがキリストを生きて、キリストのからだが実際となるためです。キリストのからだの実際のためにキリストをどのように生きるかの秘訣は、ローマ第8章にあります。それは命の霊の法則の定義、描写、説明、提示です——2節：
 - A. ローマ第8章は、「命の霊の法則」というこの用語を用いて、三一の神が、手順を経て究極的に完成されて命を与える霊と成った後、どのようにしてわたしたちの霊の中にインストールされ（組み込まれて）、わたしたちの中で一つの法則、一つの

自発的で自動的な原則と力になったかを、描写しています。これは、神のエコノミーにおける最大の発見、さらには最大の回復の一つです——**2-3, 11, 34, 16**節。

B. わたしたちは、インストールされて活動している命の霊の法則と協力して、インストールされた自動的な神の自発的で自動的な力、すなわち、三一の神の「電流」である内住の霊に対して、「スイッチを入れる」必要があります。この法則に対して「スイッチを入れる」ことは、主に触れ続けること、主との継続的な接触の中にとどまること、習慣的に主と交わること、霊にしたがって歩くことによって主の継続的な注入を受けることです——**エペソ6:18**：

1. ミングリングされた霊、わたしたちの霊とミングリングされた命の霊の法則の中で振る舞い、行動し、活動し、生活することは、キリストのからだの中で振る舞い、行動し、活動し、生活することです——**ピリピ2:13**。
2. わたしたちの霊の中には、神の臨在があり、神の語りかけがあり、神との集会があり、また神は命の霊の法則として活動することを通して、ご自身をわたしたちの内側の各部分に分け与えます——**ヘブル8:10**。
3. 霊にしたがって歩くとは、どんな時にも霊の中で祈ることです——**エペソ6:18**：
 - a. わたしたちの絶え間ない、継続的な、生きた、呼吸する祈りは、「主よ、わたしからあなたご自身を生かし出してください」であるべきです——**Iテサロニケ5:17, エペソ6:18, 詩歌304番**。
 - b. エペソ人への手紙の啓示によれば、わたしたちは絶えず祈る人となって、からだの生活の実際を持たなければなりません。わたしたちは目を覚まし、完全に目覚め、肉体的にだけでなく、心理的にも霊的にも、わたしたちの眠る性質と眠る存在に対抗して戦わなければなりません——**エペソ5:14, 6:17後半-18, コロサイ4:2**。
 - c. わたしたちはわたしたちの霊を活用して、立ち上がり、わたしたちの体と心理に打ち勝ち、主の言葉に注意を払って目を覚まして祈り、どんな時にも霊の中で祈り、目を覚まし、警戒して、わたしたちの祈りの生活を維持する必要があります——**マタイ26:41, エペソ6:18**。
 - d. わたしたちはキリストのからだの実際のために、キリストを生きる習慣を建て上げなければなりません。これは、祈りの習慣を建て上げることにあります。すなわち、絶えず霊なるキリストを吸い込み、彼を呼び求め、彼と会話する習慣を建て上げることにあります——**哀3:55-56, 詩第102篇の表題、詩歌210番**。
4. わたしたちは、命の霊の法則にしたがって、その霊で満たされることによって、またキリストの言葉をわたしたちの内に豊かに住ませることによって、キリストのからだの実際のためにキリストを生きることができます——**エペソ5:18-20, コロサイ3:16-17**。
5. わたしたちは、命の霊の法則にしたがって、空であり開かれた器となることによって、キリストのからだの実際のためにキリストを生きることができます——**マタイ5:3, ルカ1:53, 列王下4:1-6**：
 - a. パウロの十四の書簡は、「開かれた器」という言葉に要約することができます——**ローマ9:21, 23, IIコリント4:7**。

b. わたしたちは極みに至るまで主を愛し、自分自身を彼に対して完全に、徹底的に、絶対的に開き続ける必要があります。そして彼のからだのために、彼にわたしたちのすべてとなっていていただき、またわたしたちの中で、わたしたちを通して、わたしたちのために、すべての事を行なっていただく必要があります——I コリント**1:9. 2:9. 参照、16:22。**

C. 神聖な能力としての命の霊の法則は、わたしたちの中で活動し、自然にわたしたちに神を生きさせ、神格においてではなく命と性質において神とならせます——エゼキエル**36:27. ローマ8:2, 29. エペソ1:22-23. 3:19-21。**

D. 神聖な能力としての命の霊の法則は、わたしたちの中で活動し、自然にわたしたちをキリストのからだの肢体に構成し、あらゆる種類の機能を持たせます。それによってからだ全体は、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至ります——エペソ**4:11-12, 16。**